

■会員近況報告（2/4）（高16～20期）

<※>この近況報告は、2021年2月頃までに寄稿いただいたものです。

新型コロナウイルス禍のため、本年度は会報の編集もむづかしいと思いましたが、コロナごときに負けて伝統の会報を途絶えさせるのは何とも口惜しく、皆様から「近況報告」をいただければ会報もできて、お互いの元気づくりにもなるのではないかと考えました。

呼びかけにご協力いただきました皆様、有難うございました。一日も早くこの言わば「コロナ版近況報告」が思い出話になりますよう・・・。

（1/4）から続く。

高16（昭40卒）梅木隆志（大阪市）

<新型コロナでお盆連続帰省途絶える！>



大学卒業後、大阪で就職し、浜松・東京・宇都宮・横浜・広島・大阪と転勤したが、お盆は独身時代・結婚後は家族で昨年の73歳まで生まれ故郷の美保関町に必ず毎年墓参りに帰省していた。

令和2年は、新型コロナにより不要・不急の外出を控える要請もあり、51年間の毎年の行事であったが帰省を諦めた。

その旨を松江市の従兄弟に伝えたら、「正解（しえいかい）」との返事であった。

毎年の連続帰省ができなかった昨年は、何か特別な一年であった気がする。

新型コロナが終息するのはいつになるのかわからないが、今年は帰省できることを望んでいるところです。

高16（昭40卒）清原正義（浜田・松江市）

コロナ禍の中で皆様いかがお過ごしでしょうか。私は島根県立大学に務めておりますが、

日々、学生に感染者が出ないことを願って過ごしています。

今年の正月は、年末の雪が残る松江で過ごしました。これだけ雪が降った年末年始は松江では珍しいように思います。一方、都市部で感染者が増えたので、他県への移動などは自粛するよう島根県知事の要請がでています。

皆様、健康にお気を付けください。

島根県立大学の学長を兼ねる理事長の選考会議（議長・久保田章市・浜田市市長）が4日、浜田市内であり、現職の清原正義氏（73）の写真を選んだ。任期は2021年4月から2年間。最終的には知事が任命する。

経営委員会に加え、教員

（板垣敏郎）

らでつくる県立大と短大の両教育研究評議会も清原氏を推薦したのを受け、再任が適切と判断した。

松江市出身の清原氏は松江高卒。京都大教育学部卒、東京大大学院教育学研究科博士課程を満期退学。兵庫県立大環境人間学部教授、同大理事長兼学長を経て17年4月から現職。

学長に清原氏再任 選考会議

高16（昭40卒）佐々木康雄（富田林市）

遂にその日がきました。四月誕生日の私、免許の更新に先駆け、この歳で避けて通れぬ「後期高齢者認知機能検査」。絶対大丈夫とは言えず終るまでドキドキハラハラの毎日です。

仔犬の時から17年つれそった我が家の老犬、(飼い主に似て面長の男前、手足短く胴長)夏までは元気良く朝夕一時間、5キロを私の散歩に付き合っていたのが秋口から急に足腰が弱り、今ではお互い家の回り近距離を、“犬同志”いたわりあつての散歩となりました。

50数年続けてきた剣道もコロナでピンチです。自粛が解かれた後も厳しい制限！ 何しろ密も密の競技だけにそうでなくても息苦しい面の内側に目、鼻、口を覆うプラスチックのシールドを取付け、さらにマスクを着け完全装備。夏は熱中症に注意、冬は吐く息で曇りに悩まされ・・・、大声は出さぬ、お互いの礼、防具の脱着は立ったまま、高齢者は稽古を控えよ(歳を考え、辞めとけ?)。いやはや・・・、もう大変！ それでもまあやっていますけど！！

高16（昭40卒）松本耕司（枚方市）

新型コロナの巣ごもり下での私の成長！

一に三食後の食器洗い。二にお風呂の浴槽洗い。いずれもキレイさよりはスピード優先！で。三には早寝早起き。“呑めば寝る”という条件反射に磨きがかかりました。コロナ後も続けたいものです。

それから、タケノコ！ 去年は旬の季節に松江の生家に帰ることができず、勿論食べられず、その後、荒れ果てた竹林の整備に3回も松江帰りをしました。若い時なら二日もあればと思いながら、手作業の重労働には泣きました。今年は美しくなった竹林で元気なタケノコに会えることを楽しみにしています。すぐに胃袋に入れますが。



手作業の重労働中



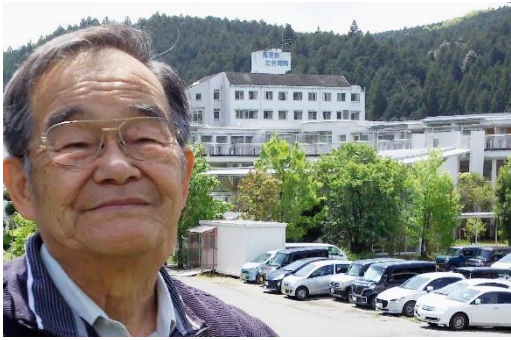
こんなに美しくしたけど、さて今年は？

それにしても、島根県の新型コロナの感染死者数がゼロというのは、人口が少ないとは言え、嬉しいですね。ふるさとの頑張りにエール！！

高16（昭40卒）森藤哲章（檀原市）

後期高齢者への仲間入りも間近になっていながら、このコロナ騒ぎの中、病院に常勤で勤務し夜診とそれに引き続いての当直も1回/週、担当し、マスクを着用してフェイスシールドを傍に置いて診察しています。

病院は写真のように田舎にあります、入り口では昼・夜診を問わず自動体温計を設置し



職場の病院を背景に

看護部長達が寒い入り口で防御具を装着して患者さん達のトリアージをしてくれています。

私の場合は、原則、予約患者だけの診察にしてもらっています。今なお医師不足の世の中であり、また親しかった亡き友人が大きくした病院・施設ですので引退し難い状況です。

そのほか、有料老人ホームやグループホームなど、合計4施設（入所者合計約125人）の嘱託医もしています。コロナ感染者やクラスターは今のところ発生していません。人工呼吸器のお世話に

なったり、感染仲介者にならないように、家族共々細心の注意をしています。万が一、私がコロナ感染でこの世の中からいなくなっても笑わないでくださいね。

高17（昭41卒）岡 久夫（神戸市）

<17期関西松江北高同期会の皆様へ>

- 1) コロナ第三波の拡大傾向が懸念される中、収束を願いつつお見舞い申し上げます。
- 2) 昨年実施予定をしておりました定例同期会は延期中です。同期会の幹事としては、収束の目処がたてば何とか早い段階で開催が出来ないかと思案しております。
- 3) 私事ですが一昨年より仲間とのオートキャンプにはまり、オリンピック北海道マラソン観戦計画が、今年は実行出来るよう心待ちにしておりますが？
- 4) 一日8,000歩・カカト落としで免疫力を高め（笑いも良いとか）て、諸先輩に負けずにまだまだ元気で過ごしたいと思っております。

高19（昭43卒）岩田一志（長岡京市）

<この頃思うこと>

昨今、テレビの報道番組を見ていると、街角インタビューで「〇〇について、どう思いますか。」などの質問に、「社会のためには・・・」とか、「世の中のためには・・・」と回答する人と、「私にとっては・・・」とか、「個人的には・・・」と回答する人がおり、両極端な印象を感じている。

他人のため、社会のために物事を思ったり、考えたりする人と、自分中心に物事を考えたりする人に大別されるのだが、実際的には、場面や条件などによりどちらの立場にもなる人が多いのではないかと思う。

さて、人は「猿→人→人間」と進化して来て、現在は人社会ではなく人間社会が形成され、我々は人と人との関わり、すなわち人間関係の中で生きている。ある書物によれば、人は魂に司られており、生物の「人」は死んでも人に宿っていた魂は次に生まれる生命の「人」に乗り移って行くという。

そして、人の中に宿る魂は、次から次へと世代を超えて、人間関係問題（人類誕生以来唯一解決されていないものと言われ、戦争、争いなど過去の歴史が物語っている。）の解決に向けて、魂（人格）を高揚させ続けているとされている。このことは、全世界各国で継続試行されている「後退（人の前世を思い出させる）催眠」等で、前世の生きざまを確認した事によるとしている。

私は、現在、70歳を超えて、「青春→朱夏→白秋→玄冬」の最終章に入っており、人生を振り返ってみて何を目的に生きてきたのか、何をしなければならなかったのかなど、若干の記憶背景はあるものの、大半は苦楽も無く淡々と日常生活を過ごしてきたように思う。

今、コロナ禍に明け暮れ人々の気持ちが晴れない中、今生に与えられた目的を達成すべく、周りの人々を癒し、「ありがとう」と言ってもらえるよう、今一度意識した行動をとらなければ、と思うこの頃である。

高19（昭43卒）新見泰朗（伊丹市）

防衛大学校卒業後、陸上自衛隊で33年、自衛隊援護協会で9年、更に大阪防衛協会事務局で6年勤務し、自衛隊との関わりは二分の一世紀を過ぎました。

今年で72歳になりますが、もうしばらく松下幸之助氏をはじめとする大阪財界人の呼びかけで昭和39年に創設された大阪防衛協会（事務局は大阪淀屋橋）で国の防衛はもとより新型コロナ等の災害派遣でも活躍中の自衛隊（自衛官）の支援・協力・激励を続けてまいります。

高19（昭43卒）池田喜美代（門真市）

昨年1月、新型コロナウイルスの感染が広まり、わけのわからない不安と、どうしようもない閉塞感、焦燥感に打ちのめされた。これからどうなるのかと。それから、私の全ての活動は止まったまま。

今更ながら、友人と出会い、語らい、食事をし、たまにお酒も、笑いあつての交流が、いかに大切に幸福な時間だったかと思ひ知った。それでも、社会は狭めながらも普通の生活を維持しようとしている。私も気をつけながら、今日もマーケットに行く。

高20（昭44卒）三好資子（西宮市）

メールマガジンで様々な情報をありがとうございます。

1月4日のNHKの「ファミリーヒストリー」は、とても身近に感じながら食い入るように観ました。「麒麟がくる」で明智光秀を演じている長谷川博己は、以前から大好きな俳優のひとりなのですが、彼のお父さんが松江高校7期であったことや、お父さんのご実家が玉造の「保性館」であることを知り、益々応援したくなりました。

また、童謡コンクールで金賞に輝いた、北高1年の坂本てまりさんのパフォーマンスを、YouTubeを通して聴くことができ、その透明感のある歌声に心が震えました。

これからもメルマガを楽しみにしています。

高20（昭44卒）山寄麻里子（大東市）

新型コロナウイルス流行で気の塞ぐ事が多いですが、敢えて良かった事を挙げると

- ①30年近く続けてきた書道にほぼ毎日向き合い、先生に腕が上がったと褒められた。
- ②家に居る時間が多くなり、ご近所との付き合いが広がった。
- ③外出が少なくなり、お金の支出が減った。
- ④コロナ禍でも、前向きに愉しく日々を過ごしている自分の受け皿の広さを発見した。
- ⑤高橋一清さんの「松江文学学校」に入校して、一清さんとの素晴らしい出会いがあった。

「疾風に勁草を知る」という故事があります。激しい風が吹いたときにどの草が強いかわかるという意味ですが、昨年102歳で亡くなった父のように、私は強く且つたおやかな雑草でありたいと願っています。

(2/4) 終わり。(3/4) に続く。